

# 令和7年度第4回岡山市総合教育会議

日 時：令和8年2月4日（水）

午後3時30分～

場 所：岡山市役所本庁舎3階 第3会議室

## 会 議 次 第

1 開 会

2 協議事項

第3期岡山市教育大綱の策定について

3 閉 会

# 第3期 岡山市教育大綱（素案）

Phase 3 : Okayama City Education Policy

---

令和8年度～令和12年度

令和8年 月

はじめに

(作成中)

## 第3期教育大綱の柱

郷土の先人・犬養木堂は、「教育は国家百年の大計」という表現のもととなった、中国春秋時代の管子の言葉「終身の計は人を樹うるに如くは莫し」を引いて、『樹人』という書を遺されました。

まちづくりは人づくり、人づくりはまちづくりです。百年先を見据え、教育を通じて、未来の郷土、ひいては世界の発展の基礎を築いていくことが岡山市の使命であり、先人の教えを胸に刻み、社会全体「オール岡山市」で人づくりに力を注ぎます。



岡山市がめざす教育

### 『樹人』 明日の世界に雄飛する人を樹うる

「『樹人』明日の世界に雄飛する人を樹うる」の実現に向けて、第1期・第2期教育大綱では、主に当時の教育現場における喫緊の課題を解決するため、「学力の向上」、「問題行動等の防止及び解決」等の目標の達成に取り組みました。

第3期教育大綱ではこれらの総括に加えて、国の教育振興基本計画のコンセプトや社会背景も踏まえて、これからの岡山市のこどもに必要なものを次のとおりと考え、その実現のために、重点的に取り組むべき3本の柱を掲げます。そして、3つの柱の取組を通して「自立に向かって成長するこども」の育成を目指します。

### これからの岡山市のこどもに必要なもの

- 考える力の基礎となる学力と発信力
- 誰一人取り残されない学びの場・居場所の充実
- 地域や社会とつながり、何ができるか考え、行動する力



### 第3期教育大綱の3本柱



## これまでの教育大綱の総括

### 第1期教育大綱

#### ■ 背景と目標

策定当時（H28）のこどもの状況は、学力については偏差値48の教科が見られ、中学校における暴力行為の発生件数は全国平均の約2倍、小学校における不登校の出現率も全国を上回るなど、大きな課題がありました。これらの状況を打破し、学校教育の変革にチャレンジするため、喫緊の課題である「学力の向上」と「問題行動等の防止及び解決」を目標に掲げ、岡山市を挙げて取り組むこととしました。

#### ■ 取組

学校	教育委員会
公開授業や研究協議等の実施	学校訪問による学校運営・授業改善への指導助言（学期1回以上）
校長による授業参観（週2回以上） 教員への指導助言	岡山市独自の学力調査（学力アセス） 及び全国学力・学習状況調査と結果を活用した授業改善の推進
問題行動等に関する研修会またはケース会議を開催（年間3回以上）	学校訪問による問題行動等の実態や対応状況の把握及び学校の対応力の向上に向けた指導助言（学期1回以上）
規範意識向上の取組（道徳の授業、非行防止教室等）を全校で実施	実際の事例について検討するケース会議での指導助言や研修会への講師の派遣を実施

#### ■ 成果と課題

校長による授業参観や教員への指導助言等の実施により、学校全体でより良い授業づくりに取り組もうとする意識が高まりました。

また、問題行動等に関する研修会を年3回以上実施するなど、教職員が1人で抱えこむことのない指導・支援体制が整ってきました。

##### 【学力の向上】

- 全国学力・学習状況調査において、小学校の国語・算数、中学校の国語・数学ともに偏差値50以上を実現し、こどもたちの考える力の基礎を築くことができました。
- ▲記述式問題の正答率の改善は不十分でした。根拠を明確にして説明する力を育成する必要があります。

##### 【問題行動等の防止及び解決】

- 中学校での暴力行為の発生件数を全国平均レベルまで低下させました。
- ▲小学校・中学校合わせた新たな不登校の出現率は、全国平均に比べ緩やかな増加にとどめることができましたが、新たな不登校児童生徒の増加が続いていることが課題です。

## 第2期教育大綱

### ■ 背景と目標

第1期教育大綱で整ってきた組織体制や仕組みを土台に、第2期教育大綱では、社会がどのように変化するか分からない状況の中、こどもたち一人一人がそれぞれの立場で社会に貢献し、自他の幸せを創造できるようになるために、目指すこどもの姿として「自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども」を掲げました。

その実現のために、「活用力」「表現力」「向上心」「社会性」「人権尊重の精神」の5つの力を育むこととし、5つの力の基礎として、「考える力の基礎となる学力の育成」「新たな不登校の抑制」を目標に掲げて取り組むこととしました。

### ■ 取組（第2期で新たに取組んだもの）

学校	教育委員会
学力調査等の結果を活用した授業改善	授業改善に向けた学校の「改善プラン」への取組に指導助言（年4回）
こどもが議論し合う活動や探究する活動を取り入れた授業づくり	若手教職員の研修等の実施
学級内の居心地のよさなどに関する調査結果を活用した共に支え合う学級集団づくり	調査結果の活用に関する研修の実施
年間10日以上欠席したこどもへの「個別の支援計画」に基づいた組織的な支援	校内支援教室へ新たに教員を配置し、校内での居場所を確保

### ■ 成果と課題

第2期教育大綱で目指した「自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども」の育成について、表現力の向上など成果が表れているところではありますが、選択と挑戦を繰り返す力が身につけているとは言い難く、「道半ば」の状況です。

#### 【5つの力の育成】

- 課題であった記述式問題の正答率は全国平均レベルとなり、自分の考えを整理して伝えることができるこどもが増加しました。
- ▲情報を収集し、考えをまとめて発表している（探究的な学習をしている）こどもの割合は、目標とする全国平均には到達していません。
- ▲協力しようとするこどもの割合や人を大切にできるこどもの割合は、基準値（R1）から5ポイント上昇させるという目標を達成できていません。

#### 【考える力の基礎となる学力の育成】

- 全国学力・学習状況調査にて、偏差値50以上を継続できました。

#### 【新たな不登校の抑制】

- ▲新たな不登校の出現率については全国的に増加する傾向にありました。当市においては全国平均に比べて緩やかな増加にとどまったものの、同じく増加しています。
- ▲今後、学校や教育委員会にとどまらず支援の輪を広げていく必要があります。

## 柱1 学び続ける力の育成

激しい変化が止まることのない時代に、自らの人生を切り拓いていく子どもたちにとって、変化を受け入れながら、生涯にわたって自ら学び続ける力を身につけることが必要です。

そのため、岡山市では、「考える力の基礎となる学力」を育成するとともに、子どもがこれからの時代に必要となる「学び方」を習得できるよう、課題に対して情報を収集し考えをまとめ、自らの考えを発信する探究的な学びを充実させていきます。

また、このようなプロセスで学ぶことは、課題の解決に向けて試行錯誤するというものであり、第2期教育大綱で課題があった選択と挑戦を繰り返す力の育成に寄与すると考えます。

### 現状

#### ● 全国平均レベルの学力の定着

「考える力の基礎となる学力」は身につけていますが、これを維持することが必要だと考えます。

○全国学力・学習状況調査の偏差値

		R3	R4	R5	R6
小学校	国語	50	51	50	50
	算数	50	50	50	50
中学校	国語	50	50	50	50
	数学	50	50	51	50

R2年度は調査なし

※全国学力・学習状況調査より

#### ▲ 探究的な学び方の習得

課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の過程を含む学習活動の機会を充実させる必要があると考えます。

○探究的な学習をしていると感じるこどもの割合

(単位 %)

		R3	R4	R5	R6
小学校	岡山市	71.5	71.5	72.2	78.3
	全国	73.0	72.7	74.8	81.3
中学校	岡山市	73.0	71.9	71.6	80.0
	全国	70.2	72.1	72.6	82.2

R2年度は調査なし

※全国学力・学習状況調査より

## 考える力の基礎となる学力と発信力

### 目標

こどもが「考える力の基礎となる学力」に加え、「探究的な学び方」を身に付けることができるよう、次の2点を目標とします。

全国平均レベルの学力を維持

探究的な学びの充実

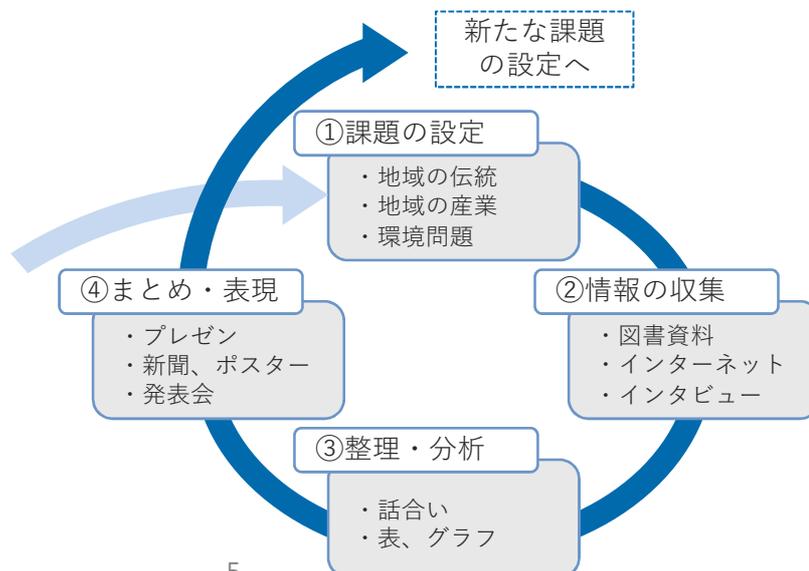
#### 目標値 (R12)

- 全国学力・学習状況調査での学力について全国平均レベル以上を維持する。
- 探究的な学び\*をしていると感じるこどもの割合を  
小学校で 84.0% 以上、中学校で 85.0% 以上にする。

### 取組

学校	教育委員会
<b>新たに取り組むもの</b>	
探究的な学びの視点を取り入れた授業づくり	総合的な学習の時間等の充実に向けた授業改善への指導助言 学習の成果をより多くの人へ伝える発表の場の設定
<b>継続して取り組むもの</b>	
校長の校内授業参観・指導助言	学校訪問による学校運営・授業改善への指導助言
学力調査等の結果を活用した授業改善	授業改善に向けた学校の「改善プラン」への取組に指導助言

\*「探究的な学び」とは  
こども自らが課題を設定し、調べ、整理し、発信する学びの過程を「探究的な学び」といいます。



## 柱2 不登校の子どもなどの居場所づくりと社会的自立への支援

第2期教育大綱の取組を継続し、新たな不登校の抑制につとめます。また、こどもの社会的自立に向けて、一人一人の背景にある要因を把握し、個に応じた支援を行うとともに、多様な学びの場や居場所を提供するなど、関係部局間の連携を進め、学校だけでなく社会全体で子どもを受け入れる仕組みの構築を目指します。

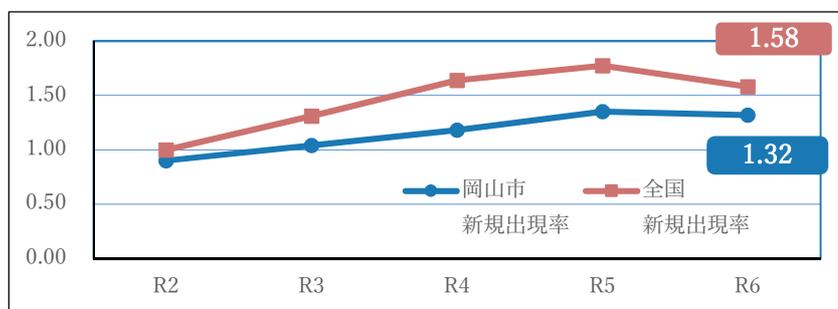
### 現状

#### ▲ 新たな不登校のこどもの割合が増加傾向

個別の支援計画に沿ったさらなる支援の充実が必要であると考えます。

○新たな不登校のこどもの割合

(単位 %)



#### ▲ 専門的な支援等を受けていないこどもの割合が全国値より高い

多様な学びの場・居場所につなげることが必要であると考えます。

○不登校のこどものうち、専門的な支援等を受けていないこどもの割合 (単位 %)

		R2	R3	R4	R5	R6
小学校	岡山市	27.3	25.7	37.3	39.9	43.9
	全国	30.6	33.0	34.9	36.3	36.4
中学校	岡山市	42.2	45.4	43.8	54.2	49.7
	全国	36.1	37.9	40.0	40.3	39.6

※各表は児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査より

### 目標

こどもの実態に合った適切な支援を切れ目なく保障するため、次の3点を実施します。

学びの場・居場所の提供

個別の支援計画のさらなる充実

関係部局間の連携

#### 目標値 (R12)

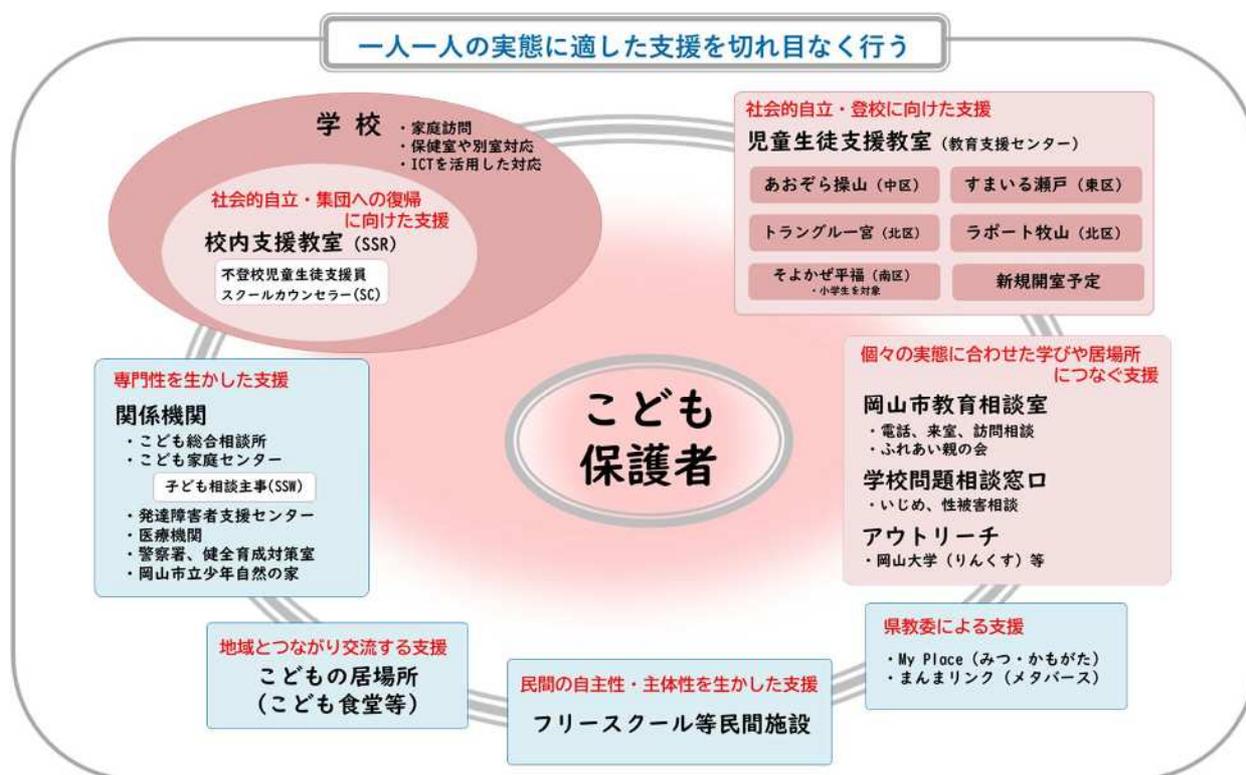
- 新たに不登校になるこどもの割合を増加させないように努め、全国値以下を維持する。
- 不登校のこどものうち、学校内外で社会的自立に向けた専門的な支援等を受けていないこどもの割合を全国値以下にする。

## 誰一人取り残されない学びの場・居場所の充実

### 取組

学校	教育委員会
校内支援教室等で効果的な指導・支援	校内支援教室・児童生徒支援教室等を拡充
欠席10日以上で個別の支援計画の作成	個別の支援計画作成のための支援
専門家のアセスメントに基づく、個別の支援計画の見直し	医療や心理の専門家を派遣
岡山っ子育成局	
教育委員会と協働して、こどもと保護者、民間支援団体の実態把握に努め、サポート体制を充実	こどもの居場所づくり支援（こども食堂等）

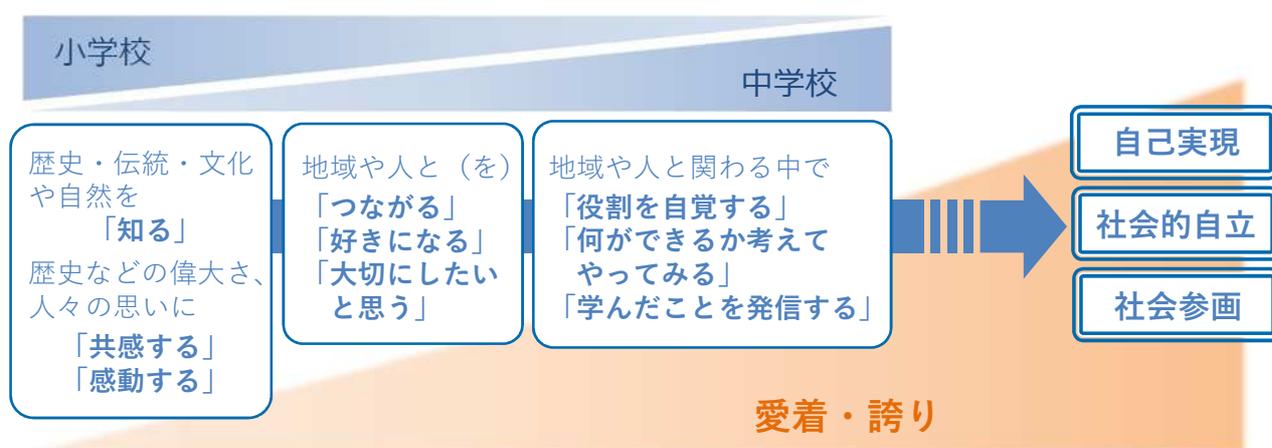
○不登校のこどもなどの居場所づくりと社会的自立を支える岡山市の取組図



### 柱3 岡山市への愛着と誇りの醸成

「ふるさと」は、単に生まれ育った場所ではなく、その人の価値観や生き方に影響を与える存在です。いわば、その人自身の原点であり、かけがえのないものです。

岡山市の歴史・文化やそこに関わる人々の思いなどを知り、地域や社会のために何ができるのかを考え行動するなどの活動を充実させることや、地域をテーマにした探究的な学びを行うことなどで、「ふるさと」への愛着や誇りが醸成され、さらには自己実現や社会的自立、社会参画に繋がっていくと期待できます。



## 現状

○地域や岡山市の歴史・自然に関心があるこどもの割合

	(単位 %)		
	R4	R5	R6
小学校	67.1	68.0	66.0
中学校	49.6	49.8	51.4

R3年度以前は調査なし  
※岡山市教育に関する総合調査より

○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うこどもの割合

		(単位 %)	
		R5	R6
小学校	岡山市	77.6	84.3
	全国	76.8	83.5
中学校	岡山市	65.2	76.6
	全国	63.9	76.1

R4年度以前は調査なし  
※全国学力・学習状況調査より

- ▲ 地域の歴史・伝統・文化に関心があるこどもの割合は高いとは言えませんでした。また、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うこどもの割合は、全国平均並みでした。地域や社会とのつながりを感じられるような機会の創出が必要と考えます。

## 地域や社会とつながり、何ができるか考え、行動する力

### 目標

こどもたちが、ふるさとの歴史・伝統・文化や自然、それに関わる人々の思いを知り、学んだことを表現する機会を創出することで、ふるさとの価値を実感するとともに、地域や社会のために何ができるかなどを考える力や行動する力を育成していきます。

また、これらの取組は、学校教育だけでなく、地域社会においても進めていきます。

#### 目標値 (R12)

- 地域の歴史・伝統・文化や自然に関心があるこどもの割合を小学校で72.0%以上、中学校で60.0%以上にする。
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うこどもの割合を小学校で86.0%以上、中学校で80.0%以上にする。

### 取組

学校での学び	
学校	教育委員会
市や地域の歴史資源等を活用した授業	市や地域の歴史をまとめた資料の作成や、教員への研修
	市や地域の歴史・文化などの講師派遣
学習したことや自らの考えを発表・発信・交流	学んだことを発表・発信する場づくり (魅力発信コンテスト、プレゼン交流会)
地域社会での学び	
文化財を知り、深く学ぶ機会の創出 (講座、発掘調査の説明会など)	
郷土資料等の展示・公開 (図書館のデジタルアーカイブなど)	
こどもの地域活動への参画を促進 (公民館活動など)	

## おわりに

第3期教育大綱では、将来子どもたちが目標に向かって挑戦し、自らの人生を自ら舵取りできるよう、3つの柱の取組を通して「自立に向かって成長する子ども」の育成を目指します。

そのために、市は、教育長を先頭に教育委員会が中心となり、岡山っ子育成局などの関係部局と協働し、本大綱に掲げる施策に取り組めます。また、取組状況について毎年度の報告をもとに、総合教育会議において検証・協議します。そして、必要に応じて大綱の見直しを行っていきます。



第3期 岡山市教育大綱  
Phase 3 : Okayama City Education Policy